

分科会名 <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 社会科 </div> 令和4年6月8日（水）	会 場 <u>川崎市立南百合丘小学校</u> 助言者 <u>川崎市立小学校社会科研究会副会長</u> <u>川崎市総合教育センターカリキュラムセンター指導主事</u> 授業者 <u>川崎市立南百合丘小学校</u> 司会者 記録者 世話人 出席者数 <u>92名</u>
--	---

1 提案の概要

4年生「健康なくらしとまちづくり～ごみはどこへ～」

5年生「自然条件と人々のくらし～住むならどっち～」

2 研究協議の概要

4年生

指導講評【研究会 副会長】

学級経営の良さを感じた。話し合う姿など、とても良かった。考え方によって資料のタイミングは異なるが、ねらいに向かってどれがよいのか考えていく。今回の資料ではどちらのクラスも意欲的に取り組んでいた。

当事者意識をもって選択・判断する姿について、授業の中で見ることができた。既習を生かして話すことができていた。板書についても意見が出たが、板書の違いが学級の雰囲気の違いになっていて比べることができ、良かった。

自分のできることを考える実践に選択・判断が加わった。「考える」という行為には選択・判断が含まれているが、判断力とも言い換えることができる。判断力が高まるポイントは子どもたちに選択したり決定したりする機会をもたせること。

課題の選択、資料の選択、教材の選択、学習方法の選択、生き方の選択など、選択する場面をたくさん用意できるようにすることが大切。どうしてそれを選択したのかについて子どもに振り返らせることも大切。それに向かって先生も基礎的なことを教えてあげることを選択・判断できるようにしていくようにする。

5年生

指導講評【研究会 副会長】

子どもたちの姿が良かった。学びの集団になっていた。既習を生かして考えれば解決できることを先生が教えているし、子どもたちも学習経験で分かっている。お互いの意見を認め合う雰囲気もできていた。

学習のねらいは大切で、単元目標と学習問題、学習過程と評価は繋がっている。単元を見通す学習問題に、地理的要因についての視点が抜けていたことが一貫性に欠ける印象を受けた要因。その一貫性が欠けていたからこそ、討論のねらいの妥当性に課題が残った。単元を見通す学習問題の言葉は、単元目標のキーワードを入れておくことが大切。

資料の読み取りのねらいは、事実を読み取ること。この資料から読み取ることができる事実は何か考える。資料から読み取れる事実は限界がある。今回の資料から読み取れるのは、学校の生活のみ。『学校の設備が違う。』ここまでが限界。補足資料が必要。

よい板書の条件は、パッと見た時に、今なにをしているか分かること。全体の流れから離れて、ふと一人で考えることもある。そこから戻ってきたときに、板書にもう一度目を向けて全体の流れに戻りやすい板書を心がけてほしい。

深い学びの実現には語彙力が必要。考えの深まりは子どもたちが表現した言葉でしか見取れない。様々な教科の学習を通して、子どもたちの語彙力の育成に取り組んでほしい。